

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)			担当者氏名	人文科学研究所 准教授 稲本 泰生				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	特殊講義
題目	東アジア仏教美術史								
【授業の概要・目的】									
<p>東アジアにおける仏教美術の受容と展開の様相について、多角的に検討する。今年度は、主に中国の石窟造像を取り上げて講述する。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、他地域の仏教美術や墓葬美術などにも目を配りつつ、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を包括的・構造的に把握することを試みる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>中国六朝～隋唐時代の石窟寺院における造像（及び壁画）について遺物・文献史料の両面から検討を加え、歴史的に跡づける。</p> <p>前期は雲岡・龍門石窟における北魏造像様式の形成・展開、後期は龍門石窟における唐代造像の展開を軸に、適宜前後の時代・他地域の状況を参照しつつ論じる。講述にあたっては以下の諸点に留意し、美術史上一つの時期が与えられる一群の窟龕を、それぞれ2～4週程度で紹介できるよう授業を進めたい。</p> <p>(a)造像に表出する、仏教と世俗権力・社会集団の関係。</p> <p>(b)インド・中央アジア的要素の東アジア仏教美術における受容の様相。</p> <p>(c)仏教徒による儀礼など各種の実践・行為と造形作品・視覚表象との関係。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
年度末のレポートによる。									
【教科書】									
使用しない 必要な資料を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									